

# 芝生広場石造物の解説



## ◆ 用語解説 ◆

道標	通行人の便宜のために、方向・距離などを記して道端に立てた表示物
道路元標	道路の基点・終点または主な経過地を表示する標識
標石	目印の石
常夜燈	金毘羅街道の道筋に立てられ、一晩中あかりを灯していた
丁石	金毘羅参詣の道しるべとして一町ごとに立てられた標石
もやい石	船をつなぎ止めるための石
カ石	力試しに用いた石 神社などに置いて、若者が持ち上げたり担ぎ上げたりして力比べをした
玉垣	神社などの聖域を囲む垣根
親柱	橋の欄干にある太い柱

## 石に名を刻まれた人たち

- あまがさきりや 尼崎里也**

里也は風袋町の足軽、尼崎幸右衛門の息女。父の仇討ちをするために江戸に出て剣術修行に励みながら敵を捜し出し、宝永2(1705)年に仇討ちを遂げる。
- しん 真 念**  
(生年不詳~1691年)

真言宗の僧で四国遍路の旅行案内書である『四国辺路道指南』『四国遍礼功德記』を出版したり、遍路道の道標を設置するなど四国遍路の普及に努めた。四国遍路の父ともいわれる。
- なかむらやはんざえもん 中村屋半左衛門**

江戸時代中期から明治時代にかけて、数代続いて活躍した丸亀の石工。石庭にある灯籠を造った中村屋半左衛門藤原清品の灯籠・狛犬の作例は多く、新堀港にある江戸講中灯籠(太助燈籠)の台座にも記名がある。

! ご観覧の際には、足元と頭上などにご注意ください。



芝生広場全景

## 芝生広場石造物について

ここに展示している石造物は、かつては、丸亀市内の道ばたや港などにあったもので、近年のさまざまな開発事業などにより、移転されてきたものです。道は古来、物流、人びとの往来、そして文化の交流などの舞台となってきました。

道ばたに立てられていた道標や常夜燈は、人びとに行き先を示し、ときには疲れた旅人を癒し、励ましたこともあったでしょう。

ここにはその他に、境界石、標石、もやい石、橋の欄干の親柱、道路元標などさまざまな石造物があります。これらは郷土の歴史を知る上で極めて重要なものです。



## コダイアマモの化石

中生代白亜紀の海に生えていた海草コダイアマモが化石となったものと考えられていたが、現在では海底に住んでいた生物の這い跡とする見解もある。

松山市の南部から東へ、香川県と徳島県の県境にある讃岐山脈、淡路島南部を通り、紀伊半島の和泉山脈まで続く和泉層群から産出する化石が有名。アヤメ石ともよばれる。

この石塔は経年劣化による危険が生じたため、移動しました。

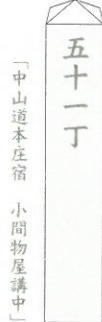
## 石塔

丸亀城下の見附屋の庭園にあったという説もある、豊島石で造られた層塔。

見附屋は山崎氏が丸亀藩主となった時代に多度津より移って来て、通町に土地を与えられ屋敷を構えた。代々町政を司る大年寄をつとめた旧家で、見事な蘇鉄の生えた庭園美で有名となった。



26 丁石 郡家町八反地附近にあったもの



「中山道本庄宿 小間物屋講中」

27 丁石 三条町亀池附近にあったもの



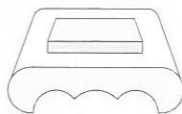
「五十六丁 加江戸 大和屋」

28 標石

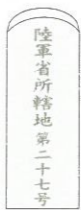
延喜式内 飯神社 讃岐園魂

「横田 兵太 横田市郎 山根 氏子  
○井 廣太 横田 愛雄 世話人 金丸 武吉  
横田 春太 富家 利七 富家 利七」  
「明治廿七年二月建」

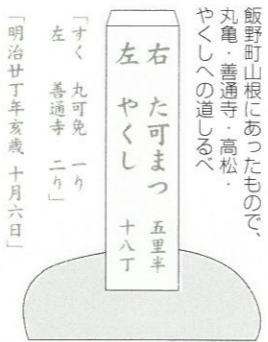
29 礎石 郡家村公民館の礎石



30 標石 陸軍省用地を示した標石



31 道標



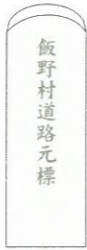
「飯野町山根にあったもので、丸亀・善通寺・高松・やくしへの道しるべ」  
「すく丸可免 一り 左 善通寺 二り」  
「明治廿丁年亥戌 十月六日」

32 道路元標



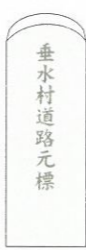
道路の起点・終点または主な経過地を表示する標識

33 道路元標



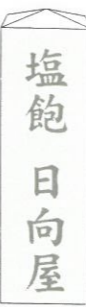
「香川縣」

34 道路元標



「垂水村道路元標」

35 標石



36 石灯籠 福島東海岸にあった金毘羅灯籠



常夜燈

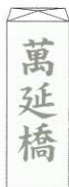
「當所燈明講 世話人大仲間」

「願主 京都住人 桐畑氏 文政十三歳次庚寅三月吉日」

「京都 美濃屋 卯八郎 當所世話人 万屋 豊藏 石工 中村屋 半左衛門 藤原清品」

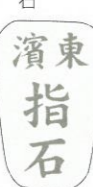
16 橋の欄干の親柱

「柞原正面寺の南部 県道上にあった橋」



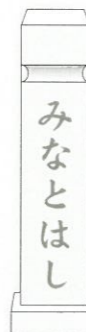
17 力石

「力だめしに 抱えあげたりしていた石 東濱は今の西平山町」



18 橋の欄干の親柱

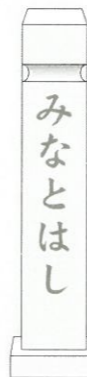
「金倉の上水道水源池前県道の 金倉川に架けられていた水門橋の元の欄干の親柱」



19 水門橋



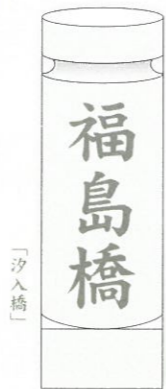
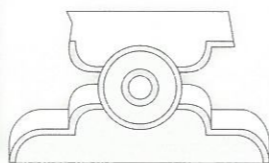
20 みなとはし



21 橋の欄干の親柱



「浜町踏切の北にあった 福島橋の親柱 埋め立てにより不用になり 東汐入橋に転用していたもの」



22 丁石

「金毘羅参詣の道しるべとして一町ごとに たてられた標石」

23 丁石

「武州児玉郡本主 森田〇左」

24 丁石

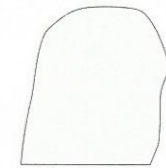
「全肥後大権現」

「願主 北邊田村 須賀村 講中」

「」内は石の銘文

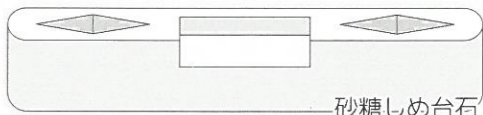
8 境界石

「土地の境界を示したもの 垂水町出土」



9 金毘羅灯籠の基礎石

「新堀温泉に 三基あった内の一つ」



砂糖しめ台石

1 道標

「右いいの山 施主丸亀 右やくし道 三好善吾」

2 玉垣

「塩飽 森田久吉」

3 道標

「左い、能山 施主丸亀 左やくし道 法師中」

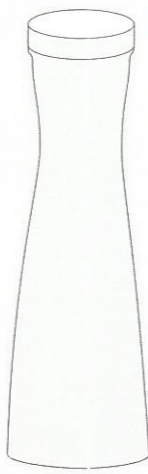
4 金倉橋の親柱



「大正十四年四月竣工」

10 もやい石

「船をつなぐための石 丸亀港の岸壁にあったもの」



11 標石

「陸軍省所轄地 第廿一號」

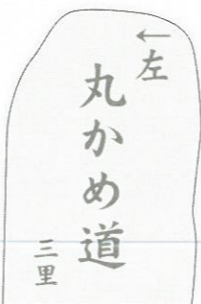


12 標石

「陸軍省所轄地 第廿四號」



5 道標



「右 高松道 八里 左 琴平道 倉里」  
「大正十年六月中旬」

13 標石

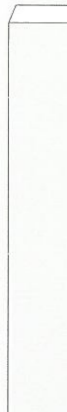
「第十中隊」



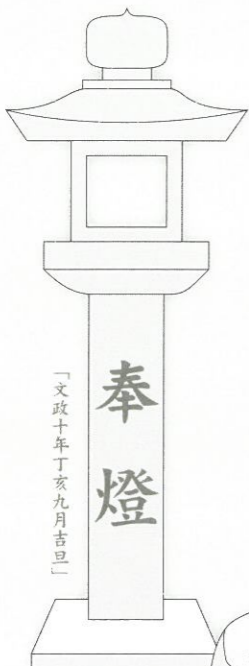
「昭和八年兵満期者一同」

15 標石

「烈女尼崎里也宅跡」



14 石灯籠

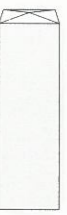


奉燈

「文政十年丁亥九月吉日」

7 標石

「山北八幡神社鎮座の地であった所を示すもの 旧NTT丸亀支店敷地の 中央南寄り辺りから出土」



6 玉垣

「福島町にあったもので金毘羅参詣の道しるべとして建てられていたもの」



「神 跡 文化十三丙子歳〇山上総介改〇」



25 道標

「中府町の民家にあった道標」



「梵字 為父母六親」  
「施主 大阪さつま本り 妙香」

「昭和三十三年五月 建之 山口滝治 風袋町自治会 実川利吉」